
狼さん

世夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狼さん

【Nコード】

N1797D

【作者名】

世夢

【あらすじ】

思いつき小説。天然少女と遊び人の男の子の話

プロローグ

「ああゝ眠たいです」

一人、大あくびをしながら歩く少女

生まれつき茶色の長い髪を靡かせて

大きくなりつとした瞳には、あくびのせいかうつすら涙がにじんでる

10人いれば、10人可愛い美少女だという程の優れた容姿、モテル並みの長い手足

…しかし、彼女は

「あつ！！太陽さんがいる。おはようございます。今日も光輝いていますね」

頭のネジが一つ足りなかった

いい風にいえば、天然

しかし、簡単に言えば

お馬鹿な可哀想な子

この話は、そんなちよつと痛い女の子の恋話である

一話

「てってっ 天気がいいなあーらーらー」

少女：…こと、荒川・唯が楽しそうに訳の分からない自作の歌を口ずさみながら、春から入学してまだ一週間しか経っていない学校へと向かっていた

訳の分からない歌なのに、その歌声は綺麗で澄んでいて酷い歌の内容にも関わらず、その類い希なる容姿と伴って見たもの魅了する

事実、さつき

すれ違ったサラリーマンも、歌を口ずさみながら通り過ぎた唯に呆然と立ち止まり
奇怪な歌を歌いながら、遠くなっていく少女を見つめていたぐらいなのだから

「はあー一人で、歩くのは寂しいものです」

さつきまで、歌を唄っていた唯はいきなり立ち止まり
空を見上げて呟いた

唯の頭の中には、さつさと学校へ先に行ってしまった男の顔が浮かんでいる事だろう

「明日は、必ず一緒に行くです」

誰も彼も敬語を使って話す彼女の独り言はもうすでに独り言さえも敬語になっていた

そんな敬語を教えてくれたここには居ない男を思い浮かべて言い聞かせるように言っと再び足を上げて歩き…

ドンー！！

出そうとしたら、後ろから走ってきた男にぶつかって転けてしまった

「だっ大丈夫？」

ぶつかってきた男は、慌てたように唯の元へ駆け寄り手を差し伸べる

「はっはい。地面さんが受け止めてくれたもので」

コンクリートの地面を地面さんなどとさん付けするのは、多分唯ぐらいのものだろう

いや、この頭のネジが足りない唯だけだ

「ああーっと、そう？」

男は、訳の分からない唯の言葉に戸惑いながら何となく差し伸べていた手を引っ込めた

「はい！！」

「ちょっと、待ちなさいよ！！」

唯が立ち上がろうとした途端

かなきり声を上げた女がこちらへ猛ダッシュで駆け寄りながら近づ

いてきた

かなきり声を聞いた途端、のほほんとした顔をしていた男はギョツとなり少し、額からは汗が出ている

「ちよつと、待ってよね！！一緒に学校へ行こうと思って家の前で待ち伏せていたのに何で裏口から家出てるのよ…って、今時家に裏口があるなんて卑怯じゃない」

近寄って来た女は、男の手首を絶対に離さないとばかりに握りしめ唯の存在を無視して男に言った

「いついやあゝ、ごめん、ごめん…」

女の迫力に男は、偽りの謝りを入れるとにつこり笑いながら、男の手首を掴んでいた女の手に優しく触れてギョツと手を握る

「ねえ、健気な真弓見てたら学校行きたくなってきたんだけど？…一緒に、いいところ行こうか？」

女の耳元に甘く囁き、少し耳たぶをかじる

「／／／もうう、朝から元気ねえゝ」

甘い男の声に気をよくした女は、さっきまでの怒りも忘れてしまう

（うつとおしくなってきたし、もうこいつを切るか…だけど、その前に一回だけ頂くでしょう）

そんな最低な男の考えも露知らず女は行く方向とは真逆の方向に背を向けて男と共に歩き出す

「んしょ、うん…いいところに私もいきたかったです。あつ！！
って学校に行かないと行けませんわ」

すっかり、男と追いかけてきた女に存在を忘れられてしまった唯は、
そう呟いた後立ち上がり急いで学校へとむかつて行った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1797d/>

狼さん

2010年10月20日19時15分発行